

第17回全国救急隊員シンポジウムが熊本県で開催

救急企画室

「第17回全国救急隊員シンポジウム」が、財団法人救急振興財団と熊本市消防局との共催により、1月29日(木)と30日(金)の二日間にわたって、熊本県(グランメッセ熊本)で開催されました。

この「全国救急隊員シンポジウム」は、全国の救急隊員等の消防職員、都道府県及び消防学校の職員、医療従事者等関係者を対象として、実務的観点からの研究発表や意見交換、救急業務に関する研究発表や最新の医学知識等を学ぶ場を設け、我が国の救急業務の充実と発展に資することを目的とし、救急隊員相互の交流の場を提供するものです。本シンポジウムは、救急救命士制度発足間もない平成4年度より毎年一回、救急振興財団と全国の政令市を中心とする各消防本部とで共同開催され、消防の救急業務の発展に寄与してきました。

○ 今回のシンポジウムの内容について

熊本県での開催となった今回のシンポジウムでは、「集え・救急現場の声！救急隊員の未来像を熊本から」というメインテーマを掲げ開催されました。

基調講演として、「救急現場の声と救急隊員の未来像—医療現場の視点から—」というテーマで昭和大学の^{あるが}有賀徹教授から、「救急隊員は専門職であり、社会からの信頼を受けて高度の裁量が委ねられていると同時に、自主的な規律を有する。自らのキャリアアップを自らが行き、専門職としての誇りと高い士気をもって学び実践することこそ救急隊員の未来像への鍵となる」というご講演がありました。

また、公開講座として「市民のための救急講習」と題し、一般の市民の方々を対象とした救命講習を実施し、多数の参加を得ました。その他、教育講演では「ガイドライン2010の動向と救急隊員の使命」、シンポジウムでは「救急医療体制の充実・強化—消防機関と医療機関の連携—」、一般発表では「活動研究」等、種々のプログラムを通じて、多くの消防職員が学び、発表に対して意見や質問を行い、また、日ごろの研鑽を積み重ねた研究成果を発表しました。

どの会場においても、熱のこもった講師やパ

ネリストに対し、熱心に聞き入るプログラム参加者の姿を見ることが出来ました。

今回の全国救急隊員シンポジウムでは、最終日に総合討論が実施され、目指すべき救急隊員の未来像とは何かを参加者全員で討議し、救急隊員及び消防組織が今後取り組むべき方向性について「提言」が取りまとめられました(提言については、救急振興財団のホームページ等で発表予定)。

また、初めての試みとして、一般応募演題から「優秀演題」及び「優秀ポスター」が採択されました。

○ 地元関係者の熱心な取組

開催期間中、あいにくの雨天にも関わらず、多数の方々が参加され、大変盛大なシンポジウムとなりました。これは、主催者である熊本市消防局のみならず、地元医師会等関係各機関の皆様が一致協力してシンポジウム運営にあられた、まさにご尽力の賜物であるといえます。今後もこのシンポジウムが救急業務の高度化推進の一翼を担うものとして更なる発展を期待しています。

なお、次回の「第18回全国救急隊員シンポジウム」は、平成21年11月26日(木)及び27日(金)の二日間、石川県金沢市において開催される予定です。



第17回全国救急隊員シンポジウム